

# 湖と生きた

うみ

ピアニスト・コレペティトゥア

岡本佐紀子さん

## ピアノとオペラ 刺激し合って深める表現

ピアニストの岡本佐紀子さんは、びわ湖ホールのおペラになくてはならないコレペティトゥア。歌手のコーチを務める音楽スタッフだ。その功績を評価され、令和元年度の

滋賀県文化功労賞を受賞した。ピアノに導かれてオペラと出会い、日本ではまだ歴史の浅いコレペティトゥアという仕事を切り開いてきた。



### おかもと さきこ

- 1958年 山口県下関市生まれ、大阪音楽大学ピアノ科卒。父の転勤で広島、東京、堺、盛岡、久留米と、高校まで転校を4回経験。新しい環境に素早く適応する力を培った。
- 1987年 大阪の喜歌劇楽友協会「こうもり」でコレペティトゥアとしてスタート
- 1998年 文化庁在外派遣研修員としてイタリアに留学。ローマ歌劇場首席コレペティトゥアのステイブン・ローチ氏に師事
- 2009年 ロームミュージックファンデーションの特別在外研修員としてパリに留学。国立バリ音楽院教授や国立バリ歌劇場のコレペティトゥアを務めたモニック・ブーヴェ氏、ピアニストのジェイ・ゴットリーブ氏に師事
- 2017年 天津市の音楽ホール「奏美」でコンサートシリーズ「紡ぐ音」をスタート
- 2019年 令和元年度滋賀県文化功労賞受賞

びわ湖ホール、大阪音楽大学ザ・カレッジオペラハウス、兵庫県立芸術文化センター、関西歌劇団などでコレペティトゥアとして活躍。びわ湖では40作品を超えるオペラ公演に参加した。びわ湖ホール声楽アンサンブルの伴奏者でもある。

大阪音楽大学の非常勤講師として後進も育てている。兵庫県西宮市在住。

聞き手・佐藤  
写真・中村  
憲一 千晴



「マタイ受難曲」の練習風景=びわ湖ホール

—コレペティトゥアとは、どんな仕事ですか？

歌い手に一番近いところにおいて、最初の練習から本番まで支え続ける音楽スタッフです。ドイツ語由来の名称で、略して「コレペティ」。イタリアでは「マエストロ・コラボラトール」、フランスでは「シェフ・ド・ソン」、英語圏では「ボーカルコーチ」とも呼ばれるます。音程、リズム、言葉、楽曲の構造分析……歌手にありとあらゆる音楽的なアドバイスをします。

—活躍の場はオペラの稽古場なんですね

「フィガロの結婚」など本番のオーケストラピットに入ってレチタティーボ（せりふのような叙唱）の伴奏をすることもありますが、基本は稽古場の黒子です。

稽古は、歌手がコレペティと一対一で歌うところから始まり、指揮者、歌手、コレペティでの「音楽稽古」、演出家加わって演技もつける「立ち稽古」と進みます。本番ではオーケストラが演奏しますが、舞台上で照明や装置も使った「舞台稽古」の時はコレペティがオーケストラボックスに入って全幕の音楽を弾くこともあります。オーケストラが入った稽古も客席で聴き、歌唱やオーケストラとのバランスをチェックして気づいたことは歌手に伝えます。

コレペティは指揮者のアシスタントであり、演出家のアシスタントであり、舞台監督とも連

携が必要。オペラのすべてのスタッフと関わる仕事です。

—歌手を支えるために、どんな準備をしますか？

作品が決まり、ピアノ伴奏版の楽譜「ボーカルスコア」が来ると、コピーを取って2穴リングファイルに綴じ直します。ページを素早くめくる工夫です。書き込みもどんどん増えますし。

まず、辞書を片手に綿密に歌詞を読みます。歌手別に色が違うアンダーラインを引き、音楽の構造を分析します。歌手がオーケストラの響きを想像しやすいように、伴奏を書き直すことも。そして、すべてのパートを歌ってみる。ここまでやって、ようやくピアノを弾きます。

—コレペティの仕事を始めたいきっかけは？

大阪音楽大学ではピアノを専攻しました。室内楽や伴奏が好きで、よく弦楽器や管楽器の学生の演技試験の伴奏を引き受けていました。ピアノを弾く仕事を増やしたいと思っていた20代の終わりに、それならオペラの仕事もあるよ、と聞いて、大阪のオペラ団体「喜歌劇楽友協会」のオーディションを受けました。合格して、1987年に「こうもり」で初めてのコレペティをやりました。



④ローマ留学時代、スティーブン・ローチ先生のお宅で＝1999年

左⑤ロンドンで行われた兵庫県立芸術文化センター公演「キャンディード」のダンサー振り付け稽古。留学中のパリから稽古ピアニストとして参加

⑥その1週間の日程を終えて記念撮影＝2010年  
(いずれも、岡本佐紀子さん提供)



—関西でも大阪音大「ザ・カレッジ・オペラハウス」、びわ湖ホールが開館するなど、オペラ公演が増えた時期ですね。コレペティの活躍の場も広がったでしょう

経験が増えるにつれ、「コレペティとして何をどう教えるかを分かっている」ということが分かってきました。専門的に勉強したくても、どこで、何を勉強できるのかの手がかりがない。知人に片っ端から声をかけてローマ歌劇場の首席コレペティトゥア、スティーブン・ローチさんに行き着き、仕事の合間にローマに飛んでレッスンを受け、留学生として受け入れてもらえることになりました。

—40歳で初めての海外留学。どんな生活でしたか？

ローチさんのレッスンのほか、オペラグループにコレペティとして参加したり、「先祖代々コレペティトゥア」という80代の男性に出会ってその博識に驚嘆したり、勉強は充実していました。でも、イタリヤって、電車もバスもいつ来るか分からないし、郵便も届かない。そんな環境に慣れるまでの3か月は本当に大変でした。郵便にも

バスにもそれぞれの時間があると思えるようになる。とイライラせずにイタリア生活を楽しめるようになりました。

—ローマでの収穫は？

音楽と言葉とピアノの弾き方がいかにつながっているかを体感して、アンテナの感度が上がり、知識を吸収する密度が高まりました。イタリア語、英語、ドイツ語、変わったところではポーランド語まで、様々な言語の作品をやりましたが、いつも感じるのは言葉の力。原語で歌うと音楽の深みが違う。楽譜だけでは音楽になりません。音符と言葉のリズムがあって初めて音楽が立ち上がります。

—50代を迎えて、パリへ2度目の留学をしました

フランスのオペラと音楽が好きで、いつ機会が来てもいいように備えておきたくて。留学を終えた後も毎年のようにパリに通ってレッスンを続けています。

2017年にメシアンのおペラ「アッシジの聖フランチェスコ」がびわ湖ホールと東京で上演されると決まった時は「私の人生に、よくぞ来てくれた」と思いました。パリで師事しているモニック・ブーヴェ先生は、この作品の世界初演のコレペティだったんです。びわ湖ホールでの音楽稽古でピアノを弾きました。

196

6 *Baraba*

der Zell ei - nen Ge - fan - ge - nen, ei - nen son - der - li - chen vor an - dern, der hieß  
there a - lone in pris - on - er, one whom all the peo - ple know and whom none un -

8 *Bar-ra-bas*

Und da sie ver - samm - let wa - ren, sprach Pi - la - tus zu ih - nen:  
And when they were met to - geth - er, Pi - late spoke to them say - ing:

10 *Bar-ra-bam*

Wel - chen wol - let ihr dass ich euch los - ge - be? Bar - ra - bam o - der  
Whom - ever will ye that I loose un - der you, nazar? Bar - ab - bus or this

12 *Evangelist*

Denn er wuss - te  
For he knew full -

16

16 auf dem Richt - stuhl saß schi - cke te sein Weib zu ihm und ließ ihm sa - gen:  
took the judg - ment seat came there from his wife to him - pass - ing say - ing

18 *(Hör Pilati (Sopr.))*

Ha - be du nichts zu schaf - fen mit die - sem Ge - rech - ten; ich ha - be heu - te  
Do thou have naught to do with that un - just per - son, for I have suf - fered

20 *Evangelist*

viel er lit - ten im Traum, von sei - net - we - gent  
much this day in a dream, from the gift of Him -

22 *Evangelist*

特製の楽譜には岡本さんの書き込みがびっしり

—ピアノとオペラが活動の両輪なんです。

オペラの世界で学んだ、言葉を音にする感覚は、ピアノの独奏にも生きます。逆に、音色を追求して多彩なニュアンスを表現するピアノの感覚はオペラに反映できる。相互作用ですね。やってもやっても尽きなくて、面白くて、やめられません。

—11月にはびわ湖ホール音楽アンサンブル特別公演でバツハ「マタイ受難曲」のオルガンを担当しました

バツハの大きな作品は初めてですが、声をかけていただいた仕事はお引き受けて、全力を尽くすのが信条。オペラと同様、言葉を大切に音楽をつくり、歌い手を支える姿勢で臨みました。

—ピアニストとしてもコンサートを続けています

ピアノが原点ですから。「様々な演奏家の持つ音を引き出し、紡ぎたい」という思いから、2017年に大津市の音楽ホール「奏美」でシリーズ「紡ぐ音」を始めました。今年は10月にフルートの江戸聖一郎さんと共演しました。一緒に演奏していると自分の新しい面も見えてきます。



- 地球にやさしい印刷技術
- 顧客満足を第一に丁寧な対応
- ハイクオリティーな印刷物をご提供



あらゆる印刷物の企画・デザイン・印刷

**株式会社 シバタプロセス印刷**

〒526-0015 滋賀県長浜市神照町499-1  
 Phone: (0749) 63-6860(代) Fax: (0749) 62-2444  
 E-mail: shibatap@skyblue.ocn.ne.jp ホームページ: http://www16.ocn.ne.jp/~shibatap/